

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271402184		
法人名	医療法人杏林堂		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	長崎県南島原市布津町乙974-1		
自己評価作成日	平成 28年 12月 10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 29年 2月 8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

同法人の明島整形外科医院併設で医療面、緊急時の対応も万全です。各居室に温便座付トイレ、洗面台、クローゼット付。バリアフリー設計です。誕生会は、入所者様の誕生日当日に行い入所者・職員でお祝いいたします。月末に施設便りはもちろん、個別に生活状況報告書を送付しご家族へ状況報告をおこなっています。地域のイベント、ドライブなど外出支援を積極的に行っています。入所者様より散髪等の希望があれば戸外に出向かないで施設内で美容師免許を持った職員がカット、カラーを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

普賢岳と有明海を一望できる当事業所は、「心も元気 身体も元気 明るく楽しく暮らしたい」の理念のもと、入居者と職員が身近に寄り添い、入居者が望む暮らしの実現に向け取り組んでいる。今年度は理念を更に具体化し、身近な課題を職員間で話し合い、改善に向け取り組んだことが窺える。掲げた目標に向け一人ひとりが自発的に行動することで、職員の士気の高まりや介護力の向上につながっている。入居者の毎日の暮らしの中には心身の機能が低下しないような工夫があり、安易な車椅子の使用を避け、外出や食事等で入居者が自ら選択できる場面を多く作っている。個々が持つ生活のこだわりや個性を尊重した支援によって、入居者が安心し、生き生きと笑顔で過ごす様子が窺えた。職員は家族への声かけで立ち寄りやすい雰囲気を作り、関係性を深めながら一緒に入居者を支える取り組みもある。職員がそれぞれに自分の仕事に誇りを持ち、強固なチームワークで入居者と楽しみながら過ごす職員の姿に、より一層期待の持てる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 有明ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心も元気、身体も元気、明るく楽しく暮らしたい」を理念に掲げ、新入社員へは入社時に伝えている。理念の実践に当り毎月具体的な目標を設定し実践している	今年度は理念を具体化し、「一日一回は笑い、笑顔のある生活を過ごせるように心がける」と毎月身近な目標を掲げ理念の意識付けがなされている。毎月のカンファレンスで達成状況を話し合い、評価を繰り返しながら職員一人ひとりが目標達成に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加や近隣への散歩、幼稚園への慰問訪問を通し日常的に交流に努めている	地域行事への参加や法人の夏祭り等へ積極的に参加し、幼稚園やジュニアコーラスの訪問の受け入れ等地域の方と入居者との相互的な交流活動がある。地域のボランティアや実習生を受け入れ、ホームの方針や雰囲気地域の方に向けてもらう取り組みがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生の受け入れや地域の慰問・訪問の受け入れなど地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回職員代表市の職員代表入所者家族代表の方が参加され日々のグループホームでの活動報告入所者の近況報告状態等を報告し参加者より地域の情報や市の取り組みご家族から意見を頂いている	会議には広域職員や地域代表、入居者家族が持ち回り制で出席し、ホームの運営状況や事故報告等透明性の高い会議となっている。議事録については毎回請求書と一緒に家族へ郵送し、入居者の生活状況や今後の予定、介護の方針等ホームの現状を知って頂く取り組みがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーで市の職員の代表の方と情報交換を行っている。市の職員と運営推進会議を通じ実情や取り組みを伝え双方の協力関係を構築している	入居者の生活に支障が生じた際、管理者は適切な関係機関に相談し、入居者の安心に繋がるよう努めている。今年度より毎月広域圏が派遣する介護相談員を受け入れ、第三者よりホームの現状把握や入居者の不安や悩みの声を引き出してもらい、介護保険サービスの質の向上や改善に向け取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等への参加と伝達研修で理解を共有している。夜間以外は玄関を施錠せず、利用者の行動を把握し外に出られる入居者がいる時は一緒に行動をし見守りを怠らない様にしている。	日頃の関わりの中から入居者の状態を把握し、拘束をしないケアの実践に努めている。転倒などの不安がある入居者には環境等の工夫で事故を減らし、また不穏時には落ち着くまで寄り添い対応している。現在は筋力低下しないよう安易な車椅子の使用は避け、不穏になる前に外出し毎日を楽しみ気分で過ごせるよう予防策を講じ努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会へ参加し全体会議等で伝達研修を行っている。日々職員同士で、ケアの方法や言葉使い声掛け等、気付いた時に話合っ自分自身を振り返るようにしている。又、入浴時や更衣時に全身状態を観察し異常がないかチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員等基礎研修の成年後見制度を受講させ伝達研修を行ったり、管理者の経験など伝え今後活用出来る様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り入所前に見学して頂くか、電話などで運営方針や理念、契約内容など伝え理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族へ声掛けを行い、意見や要望を聞いたり施設での状況を報告している。全体会議で職員と意見交換を行い、運営推進会議で市の職員や地域の代表へ報告や意見を聞き運営に反映している。また、玄関には意見箱を設置している	日頃から家族や入居者に積極的に声かけし、家族がホームに立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めている。入居者の日頃の様子を伝え、家族の心配や不安にも耳を傾けながら、対応方法等職員で話し合い、入居者や家族が安心感を持って過ごせるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り、職員個別から意見や提案を考慮して取り組んでいるが不満や苦情等言い難いところもあるので把握していない部分もある	職員会議や日頃のミーティングの他にも、職員の気づきや入居者の変化について情報共有が頻繁に行われている。身近な課題も職員が自主的に話し合い、最善の方法や改善策を取り入れ、入居者や職員がのびのびと楽しく過ごせる環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に対し手当をつけ、受験や研修会時等には勤務調整を行い優先的に休みを与えるなど職場の環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には毎日職員が指導に付き約3ヶ月掛けて内容把握に努めている。外部の新人研修会に参加させスキルの向上をさせている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新人職員は1人の職員が付いて1ヶ月間ケアの技術だけでなく入所者との関わり方について丁寧な指導を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様・家族様に見学して頂いて事前に調査で情報収集する事で本人様・家族様の要望を傾聴し安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族からの不安や要望をしっかりと伺い入所後も常に日常の様子を報告し、意向や要望があれば対応し、信頼関係を作る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族より相談を受けた際にアセスメントを行いその時に必要としている事を計画し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴を把握し、人生の先輩から学ぶという姿勢で接している。教え合ったり、励まし合ったりしながら支え合い、生活を共にし、信頼関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態を共有し家族様の意向を聴きながら良い関係が築けるよう心掛けている。職員がすべて支援するのではなく、家族として本人様の為に出来る事はして頂き、共に支えている関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の生活歴を把握し、家族様に協力して頂きながら今までの馴染みの人や場所との関係が途切れない様にしている。面会や一緒に外出されたりして、関係を保たれている。	個人の思い出を尊重し、昔からのお付き合いや仁義等入居後も関係性が途切れないよう家族と共に支援している。昔から付き合いがあった商店や友人との付き合い等、入居によって途切れがちな関係が継続できるよう、職員が入居者の寂しさや心に耳を傾け取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話を聴いたり相談に乗ったり、普段の活動を通じて利用者同士の関係を把握し職員間で情報共有を行っている。食事やドライブ時の座席なども利用者同士の関係性を把握し必要時は職員が間に入り良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院に移られた時は家族と街で会った時等状態を聞いている。又ケアマネにも近況状況を聞き申し送り職員へ報告している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や表情、行動の中から本人の思いを把握する様に努めている。状態により困難な場合は家族より情報を頂いている。	入居者の暮らし方や生き方、こだわりを理解するため、職員は入居者や家族と多く関わりを持ち、入居者と一緒に行動しながら、その方の身近な存在になるよう取り組んでいる。生活の中で、入居者が意思を表出できるよう選択肢を設けている場面が多く、職員に遠慮なく希望を伝えられるような工夫がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子や、本人の出来る事、出来ない事、言動などを介護日誌に残し、本人の暮らしの現状を把握する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意向や希望を聴き、職員間で意見を出し合い現状に合ったケアが出来る様にしている。変化があった場合には、随時、全体会議で見直し検討しながら介護計画を作成している。	毎日の変化や様子が介護日誌に記され、入居者や家族の意向を取り入れながら職員間で協議され立案されている。職員は入居者個々の課題を把握し、PDCAサイクルを実施しながら入居者に残された能力を活かし、望む暮らしの実現に向け取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや気付きは個別記録し、プランが実践できているかマーカーで線引きをし、一目で分かる様に細かな点にも注意して常に職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望により、外出・外泊を臨機応変に対応。利用者の意見を尊重し買い物の支援など柔軟に対応し、個別の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やテレビ、新聞やホームページを活用し地域資源を把握している。イベントなど安全に楽しめる様に情報を収集し計画を立てて支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院やかかりつけの病院へ受診を行っている。受診時は主治医に入居者様の状態を報告し連携を図っている。	入居前のかかりつけ医を職員支援のもと継続受診できている。医院併設のホームであることから、協力医によって小さな体調の変化にも迅速に対応し、情報提供書によって連携が保たれている。長年のかかりつけ医を受診できることで入居者や家族の安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で入居者の状態観察に努め、状態変化、気付きは看護師に報告し相談、助言を頂き適切な医療が受けられるようにしている。また、昼夜問わず連携がとれる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に見舞いに出掛け、回復状況等を医師や看護師と情報交換を行っている。ご家族とも情報を共有するようにし、相談や退院についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算や看取り加算を算定していないが、入所前に重度化や終末期に対するケアの同意書を作成し終末期や重度化対し方針の共有に取り組んでいる	これまでも看取りの経験があり、入居時に急変時における対応についての同意書や意向確認をしながら、今後も家族や本人、医師と話し合いをしながらホームでの看取りに取り組む予定にある。今年度はグリーンケアの外部研修に参加し、ホームで看取りへの心構えや家族に対する接し方を伝達講習行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会への参加や急変時対応マニュアル本を設置している。同一法人の医院の看護職へ相談や連携を密に取るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回以上の避難訓練を消防署立会いで行い、全職員避難訓練を経験している。又、年1回の消防学校や消防署で開催される研修に行き防災に対する知識を高めている。自然災害についても消防署署員に相談をしている	年に2度実施される避難訓練では、新人職員を中心に実施し、避難方法や手順の確認を行い誰もが体得できるよう取り組んでいる。推進会議では地域ぐるみの避難訓練実施の提案もあり、今後地域の理解を得ながら実施していく意向にある。今年度は自然災害に意識を持ち、防災計画策定に取り組んだ。備蓄品の量や非常持ち出ファイルの整備等については、現在も内容を検討中にあるとのことである。	避難訓練は継続的に実施されているが、訓練関係の実施記録が分散化しており、実施内容や前回訓練時の反省点が幾分把握できにくい状況に合った。職員がいつでも訓練の振り返りができるよう書式の整備等でより実践的な訓練に繋がり、更に防災意識を高める取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに注意して自己決定出来るよう巧みに働きかけたり、特に入浴や排泄時には羞恥心に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない様工夫している。	意思決定の場面では、入居者の意思がないがしろにされないように入居者にわかりやすい言葉で説明し、選択肢を示しながら、意思が表出しやすい環境づくりに努めている。排泄介助や入浴時等、肌が露出する場面では身体にタオルを膝にかけるなど入居者の羞恥心に配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状況に合わせ表情や態度からも思いやりや希望をくみ取れる様に分かり易く言葉掛けをする等、自己決定し易い様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重するように心掛けている。時間が掛かっても本人のペースに合わせ、ゆっくりと過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択はできる限り本人の希望によって行っている。散髪は美容師の資格がある職員が好みの髪型にカットしたり行きつけの美容院に連れていき対応し、また細目に爪切りや耳かきも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意、片付け等、入所者と職員が一緒に行い、入所者が使い易いよう介護食器を使用し個人の嗜好により代替食を用意したり、そしゃく、嚥下の様子を観察し刻み・ミキサーにしたり糖尿病食等出来る限り対応している。	炊事ができる入居者には、職員と一緒に洗い物やテーブル拭き等下膳をし、自宅で過ごされるのと同じ生活ができるような取り組みがある。職員が入居者同士の仲介役となり、同じテーブルの食事をする者同士が、皿の引きよせや声を掛け等助け合い、生活連帯感を持ちながら過ごせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス等、栄養士に相談しながら献立をたて、栄養補助食品など使用している。食事や水分摂取量については記録を取り職員間で共有している。また、個人の病状により調味料等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後には、個々の能力に合わせた口腔ケアや、定期的な義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔内や義歯の状態を観察し、適宜歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見て、さりげなく声掛けを行ったりトイレ誘導をする事で失敗回数を減らし、出来る限りトイレで排泄出来る様支援している。排泄を大切にしているが、必要に応じて紙パンツやパットを利用している。	入居者それぞれに応じた排泄方法やタイミングで介助されている。できるだけ自分で排泄できるよう安易な車椅子の使用は避け、歩行器やリハビリで基本動作の回復に取り組んでいる。自分で排泄できる入居者の残された力を見守り、さりげない言葉かけで失敗しないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便管理を行い、毎日一定量の水分を摂取し食事に食物繊維の多い食材を使用したり、おやつ時に牛乳などの乳製品を提供し自然排便につながる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全の為、日中帯に入浴して頂いている。午前、午後、順番または入浴出来ない時の清拭など希望に沿った入浴ができる様支援している。一人一人個別に入浴して頂いており、入浴時間等は決めず、ゆっくりとくつろいで頂けるようにしている。原則的に同性職員が介助している。	入浴時間や入浴方法等、ひとりで入浴できる方に対しては途中で見守りし、自立を促すケアに取り組んでいる。身体機能に応じて身体に負担をかけずに入浴できる設備もあり、安全性に配慮しながら寛いで入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯のリハビリ体操など活動を促し生活リズムを整えている。時節にあった温度調整に努め安心して休息したり安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意している。薬剤情報を個々のファイルに綴じて、すぐに観覧できる様にしている。状態観察を行い、必要に応じて担当医へ相談し見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経歴などを考慮しお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。天気の良い日など気分転換に犬の散歩やドライブを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に入居者様個人の買い物、ホームの必要物品等の買い物に出かける様に努めている。また、ドライブを計画し、公園や近隣の催し事など入居者様の希望に合わせて参加できる様に努めている。	入居者全員が、月に1度は外出できるよう週ごとに計画を組まれている。少人数で動くことで季節ごとの訪問先や衣料品、量販店等買い物先など様々に、ゆっくりと外出を楽しむことができている。入居者が地域の催しや新聞の広告に関心をもち、「次はどこに行こうか」と話し合いながら、外出を楽しみにしている様子が印象的であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を持って頂く事にしているが、ほとんどの方が自己管理が出来ない為、家族と相談し欲しいものがある場合など、立て替え払いで対応している。職員との買い物時はレジを通して実際にお金を払って頂く等、経験して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など、職員が声掛けを行い希望をとり、電話も希望に応じ、その都度やり取りが出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度調整を細目に行い、共用の空間が利用者にとって不快感がないよう配慮している。利用者手作りの作品や季節感ある品を飾り、居心地良い空間作りに努めている。	入居者同士が会話を弾ませ、温かい雰囲気の中で寛げるリビングは、採光や室温に配慮され、家具の色合いや配置など入居者が思いおもいにゆっくりと過ごせる場所となっている。ホームは中庭を囲む構造となっており、ホーム犬とはどの角度からも触れ合う事ができる作りとなっている。ホーム犬は入居者の心を癒し、会話や笑顔を引き出すきっかけにもなっていることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が気軽に話が出る様に席の配置を考慮している。また、テレビの前を広くし、集まり易い空間となる様にソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や物品の制限は特になく、テレビ、冷蔵庫、ベットなど本人の使い慣れた物の希望があれば出来る限り持ち込めるように支援している。	入居者本人が使いなれた家具や寝具、調度品の持ち込みがあり、ベッドの向きや位置、備え付けのトイレまでの距離等、本人が使いやすいよう家族と協力しながら安心できる環境が整えられている。居室では趣味活動等思いおもいに自由に過ごすことができ、落ち着ける部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の力を把握し、張り紙や声掛けで混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、安全に暮らせる様支援している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 雲仙ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心も元気、身体も元気、明るく楽しく暮らしたい」を理念に掲げ、新入社員へは入社時に伝えている。理念の実践に当り毎月具体的な目標を設定し実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加や近隣への散歩、幼稚園への慰問訪問を通し日常的に交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生の受け入れや地域の慰問・訪問の受け入れなど地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回職員代表市の職員代表入所者家族代表の方が参加され日々のグループホームでの活動報告入所者の近況報告状態等を報告し参加者より地域の情報や市の取り組みご家族から意見を頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーで市の職員の代表の方と情報交換を行っている。市の職員と運営推進会議を通じ実情や取り組みを伝え双方の協力関係を構築している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等への参加と伝達研修で理解を共有している。夜間以外は玄関を施錠せず、利用者の行動を把握し外に出られる入居者がいる時は一緒に行動をし見守りを怠らない様にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会へ参加し全体会議等で伝達研修を行っている。日々職員同士で、ケアの方法や言葉使い声掛け等、気付いた時に話合って自分自身を振り返るようにしている。又、入浴時や更衣時に全身状態を観察し異常がないかチェックしている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員等基礎研修の成年後見制度を受講させ伝達研修を行ったり、管理者の経験など伝え今後活用出来る様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り入所前に見学して頂くか、電話などで運営方針や理念、契約内容など伝え理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族へ声掛けを行い、意見や要望を聞いたり施設での状況を報告している。全体会議で職員と意見交換を行い、運営推進会議で市の職員や地域の代表へ報告や意見を聞き運営に反映している。また、玄関には意見箱を設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り、職員個別から意見や提案を考慮して取り組んでいるが不満や苦情等言い難いところもあるので把握していない部分もある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に対し手当をつけ、受験や研修会時等には勤務調整を行い優先的に休みを与えるなど職場の環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には毎日職員が指導に付き約3ヶ月掛けて内容把握に努めている。外部の新人研修会に参加させスキルの向上をさせている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新人職員は1人の職員が付いて1ヶ月間ケアの技術だけでなく入所者との関わり方について丁寧な指導を実施している		

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様・家族様に見学して頂いて事前に調査で情報収集する事で本人様・家族様の要望を傾聴し安心して頂ける様な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族からの不安や要望をしっかりと伺い入所後も常に日常の様子を報告し、意向や要望があれば対応し、信頼関係を作る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族より相談を受けた際にアセスメントを行いその時に必要としている事を計画し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴を把握し、人生の先輩から学ぶという姿勢で接している。教え合ったり、励まし合ったりしながら支え合い、生活を共にし、信頼関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態を共有し家族様の意向を聴きながら良い関係が築けるよう心掛けている。職員がすべて支援するのではなく、家族として本人様の為に出来る事はして頂き、共に支えている関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の生活歴を把握し、家族様に協力して頂きながら今までの馴染みの人や場所との関係が途切れない様にしている。面会や一緒に外出されたりして、関係を保たれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話を聴いたり相談に乗ったり、普段の活動を通じて利用者同士の関係を把握し職員間で情報共有を行っている。食事やドライブ時の座席なども利用者同士の関係性を把握し必要時は職員が間に入り良い関係が築けるよう支援している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院に移られた時は家族と街で会った時等状態を聞いている。又ケアマネにも近況状況を聞き申し送りで職員へ報告している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や表情、行動の中から本人の思いを把握する様に努めている。状態により困難な場合は家族より情報を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子や、本人の出来る事、出来ない事、言動などを介護日誌に残し、本人の暮らしの現状を把握する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意向や希望を聴き、職員間で意見を出し合い現状に合ったケアが出来る様にしている。変化があった場合には、随時、全体会議で見直し検討しながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや気付きは個別記録し、プランが実践できているかマーカーで線引きをし、一目で分かる様に細かな点にも注意して常に職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望により、外出・外泊を臨機応変に対応。利用者の意見を尊重し買い物支援など柔軟に対応し、個別の満足度を高めるよう努力している。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やテレビ、新聞やホームページを活用し地域資源を把握している。イベントなど安全に楽しめる様に情報を収集し計画を立てて支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院やかかりつけの病院へ受診を行っている。受診時は主治医に入居者様の状態を報告し連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で入居者の状態観察に努め、状態変化、気付きは看護師に報告し相談、助言を頂き適切な医療が受けられるようにしている。また、昼夜問わず連携がとれる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に見舞いに出掛け、回復状況等を医師や看護師と情報交換を行っている。ご家族とも情報を共有するようにし、相談や退院についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算や看取り加算を算定していないが、入所前に重度化や終末期に対するケアの同意書を作成し終末期や重度化対し方針の共有に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会への参加や急変時対応マニュアル本を設置している。同一法人の医院の看護職へ相談や連携を密に取るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回以上の避難訓練を消防署立会いで行い、全職員避難訓練を経験している。又、年1回の消防学校や消防署で開催される研修に行き防災に対する知識を高めている。自然災害についても消防署署員に相談をしている		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに注意して自己決定出来るよう巧みに働きかけたり、特に入浴や排泄時には羞恥心に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない様工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状況に合わせて表情や態度からも思いやりや希望をくみ取れる様に分かり易く言葉掛けをする等、自己決定し易い様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重するように心掛けている。時間が掛かっても本人のペースに合わせて、ゆっくりと過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択はできる限り本人の希望によって行っている。散髪は美容師の資格がある職員が好みの髪型にカットしたり行きつけの美容院に連れていき対応し、また細目に爪切りや耳かきも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意、片付け等、入所者と職員が一緒に行い、入所者が使い易いよう介護食器を使用し個人の嗜好により代替食を用意したり、そしゃく、嚥下の様子を観察し刻み・ミキサーにしたり糖尿病食等出来る限り対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス等、栄養士に相談しながら献立をたて、栄養補助食品など使用している。食事や水分摂取量については記録を取り職員間で共有している。また、個人の病状により調味料等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後には、個々の能力に合わせた口腔ケアや、定期的な義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔内や義歯の状態を観察し、適宜歯科受診をしている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見て、さりげなく声掛けを行ったりトイレ誘導をする事で失敗回数を減らし、出来る限りトイレで排泄出来る様支援している。排泄を大切にしているが、必要に応じて紙パンツやパットを利用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便管理を行い、毎日一定量の水分を摂取し食事に食物繊維の多い食材を使用したり、おやつ時に牛乳などの乳製品を提供し自然排便につながる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全の為、日中帯に入浴して頂いている。午前、午後、順番または入浴出来ない時の清拭など希望に沿った入浴ができる様支援している。一人一人個別に入浴して頂いており、入浴時間等は決めず、ゆっくりとくつろいで頂けるようにしている。原則的に同性職員が介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯のリハビリ体操など活動を促し生活リズムを整えている。時節にあった温度調整に努め安心して休息したり安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意している。薬剤情報を個々のファイルに綴じて、すぐに観覧できる様にしている。状態観察を行い、必要に応じて担当医へ相談し見直しを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経歴などを考慮しお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。天気のいい日など気分転換に犬の散歩やドライブを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に入居者様個人の買い物、ホームの必要物品等の買い物に出かける様に努めている。また、ドライブを計画し、公園や近隣の催し事など入居者様の希望に合わせ参加できる様に努めている。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望があれば、お金を持って頂く事にしているが、ほとんどの方が自己管理が出来ない為、家族と相談し欲しいものがある場合など、立て替え払いで対応している。職員との買い物時はレジを通して実際にお金を払って頂く等、経験して頂いている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状など、職員が声掛けを行い希望をとり、電話も希望に応じ、その都度やり取りが出来る様、支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度、湿度調整を細目に行い、共用の空間が利用者にとって不快感がないよう配慮している。利用者手作りの作品や季節感ある品を飾り、居心地良い空間作りに努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った利用者同士が気軽に話が出来る様に席の配置を考慮している。また、テレビの前を広くし、集まり易い空間となる様にソファを配置している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具や物品の制限は特になく、テレビ、冷蔵庫、ベットなど本人の使い慣れた物の希望があれば出来る限り持ち込めるように支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>1人1人の力を把握し、張り紙や声掛けで混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、安全に暮らせる様支援している。</p>		